



## 第476回 番組審議会

1. 日 時 平成24年6月19日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 11名

出席委員 10名

委員 長 清野 雅子

副委員 長 千葉 幸長

委員 望月 善次

委員 福田 泰司

委員 坂本 修

委員 池田 克典

委員 吉江 信博

委員 鈴木 正之

委員 平 英一

委員 遠藤 雅也

欠席委員 1名

委員 柴田 和子

社側出席者

矢後 勝洋(代表取締役会長)

石井 修平(専務取締役)

淵沢 行則(取締役報道制作局長)

菅野 智(営業局長)

遠藤 隆(報道制作局次長)

栢沢 卓巳(報道制作局 制作部 副部長)

事務局

山信田 寧(編成技術局長)

畠 義真(編成技術局編成部長)

平山 亜希子(編成技術局編成部主任)

4. 議 題

1. 5/19 (土) 10:00～10:30 ONE!～手をつなごう、前へ～

## 2. その他

### 5. 資料

資料として以下のものを配布

- ・ 視聴者からのご意見

### 6. 意見

#### 委員側意見

○タイトル通り人と人をつなぐ、人と物資をつなぐ、被災者と全国の励ましをつなぐ、復興とエネルギーをつなぐ、さまざまなキーワードをつなぐ主人公が登場し、関心を深めたし、視聴者も元気をもらったのではないか。3月11日を忘れてはいけないと改めて感じた。

○被災者、支援者の生の声の続報をもっと続けてほしい。ある人物の人生描写を続けていくのは貴重な記録になっていくと思う。

○今回とりあげたのがポジティブな面なので、復興がほどとおい、という点も織り交ぜてもらえればさらに復興に進んでいく様子がわかると思う。

○「伊藤文具店の1年」そのほかは右上にテロップが入ったのに、「語り場」というNPOの名前は「遠野まごころネット」の次に出さなかった。テロップに一貫性が感じられなかった。

○「元氣びと」「絆びと」という副題の設定がよかった。それぞれ前に進もうという気持ちが支援活動とともによく出ていた。

○番組内容は盛りだくさんで、情報番組としてよかった。しかし、表面的で、心に訴えかけるものがなかった。

○1回目では若干物足りない部分感じ、2回目の放送で確認した。同じような趣旨ではきわめて良質なすぐれたものだったと思う。視聴者の共感、自省を呼ぶ、すべきこと、できることあるはずだという思いを抱かせるものだった。この時期だからこそ必要な番組だと思う。

○キャスターも歯切れがよく前向きになれてよかった。

○全国からのボランティアに支援していただいていることが確認でき、感謝の気持ちがわいた。

○復興には5年、10年かかるが、自ら立ち上がれる人、支えられながら立ちあがる人、さまざまな人がいて、前向きに歩んでいる人に光を当てて紹介してほしい。

○「絆びと」のコーナーで取り上げたものは前から内容については知っていたが、臨学舎はいろんな境遇の人が参加しているのに驚いた。地元の参加も呼び掛けていたので、県民に向けてのアピールにもなった。

#### テレビ岩手側意見

○震災報道は継続性が必要。日々のニュースなどでやってきているが「ONE!～手をつなごう前へ～」はその通り、現地で頑張っている人をテーマに「明るさ」「希望」「未来」をキーワードとして今後復興を見据えていこうというもの。

○去年生放送で放送していた「元気商店」とコンセプトは基本的に同じだが、今年違う部分は「絆びと」のコーナー。日の目を見ない裏方のボランティア活動を紹介することで、今被災地で動いているものや抱えている問題点が見えてくるんじゃないかと構成している。

○「サイドスーパーが一貫性がない」ことは再考したい。また「スーパーの色、字体が見づらい」ことについてはテーマ性の部分で温かい色で人の気持ちの温かさを伝えたかった意図があった。見づらいなら改良を加えていこうと思う。

○元気びとの方向性は去年放送の「元気商店」のコーナーを継続して、前に取材した方の歩みを紹介したい。それをいれつつまだ紹介していない人を加えたい。

#### 7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、関連部署に議事録を配布するなど関係者に審議の内容を伝えた。

#### 8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

・自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」

平成24年6月26日(火) (午前11時45分～11時52分放送) で、審議の概要を放送。

・支社・支局に議事録を設置

・当社のインターネットのホームページで議事録を公開